

§ GMセクション

このルールを用いたシナリオを作成する上で、指針やアドバイスについて記述する。

○NPCとしての秘術武器のロールプレイ

- ・秘術武器は原則としてNPCとし、GMが扱う。
- ・秘術武器の思考は基本的に機械的であり、必要時以外には会話しない。
- ・GMは以下の基準で秘術武器の会話内容を決めること。
- ・中にはオンチャベリであったり女性のような口調で会話する秘術武器があってもよい。

a) 契約者に質問された場合

- ・秘術武器は可能な範囲で回答する。
- ・よくわからないことについては“知らない”と答える。
- ・GMはシナリオのヒントになるような回答をしてもよい（偶然、知っていたということができる）。
- ・秘術武器達は、自分を創った者のことをはっきりとは憶えていない。ただ、自分が作られた存在であることは認識しており、創造主がいたことは理解している。

b) 契約者が危機にさらされている場合

- ・秘術武器は心で会話するため、契約者が眠っていても意識に直接働きかけて起こすことが可能。

c) 他の秘術武器と対峙した場合

- ・秘術武器は、お互いに兄弟と呼べる存在であり、同時にライバルでもある。
- ・秘術武器は自分の実力を知らしめるため他の秘術武器と闘うことに躊躇いがない。
- ・他の秘術武器を相手に戦うことになった場合、秘術武器同士は相手の名前を直感的に知ることができる（契約者が聞けば教えてくれる）。
- ・過去に対戦した経験があれば、秘術武器同士で“今度こそ倒す”とか“あの時は・・・”といった、過去の出来事にまつわる会話をします。
- ・GMはいろいろと演出してよい。

d) 同じアルカナの秘術武器と対峙した場合

- ・秘術武器は、自分達の紛い物が存在することを知っている。そのため自らが冠するアルカナと同じアルカナの名を持つ秘術武器同士は、いずれも自分がオリジナルであると主張し、紛い物に対して激しい敵意を持っている。
- ・相手の秘術武器を“紛い物”、“偽物”、“欠陥品”などと罵倒し、契約者に戦うように指示する。
- ・殺る気満々で、契約者が戦闘以外の行動を取ろうとした場合は怒る。その場合、暴走が可能なら必ず暴走する。

○セッション開始時点での注意点

- ・プレイヤーの趣向によっては、選択したアルカナや武器形状、所持している能力が同じになってしまうことがあるが、このルールではそれを制限しない。ただし、余計な衝突を回避しなければ、プレイヤー同士で重複しないようにで話合うことをオススメしておくこと。
- ・プレイヤーが慣れているなら、あえて重複したまでセッションを開始してもよい。

○狙われる秘術武器

- ・裏社会では、秘術武器の名前はそれなりに知られている。
- ・コレクターや軍事産業、そして自分の力を高めたいと考えているものは多数存在し、秘術武器はそのようなものたちに常に狙われている。
- ・秘術武器を所持することによって得られる不老効果を得るために、渴望しているものも多数存在する。

○契約者の暴走

- ・稀に秘術武器と契約することで、理性の檻が外れ、おおよそ普通の社会には不適合な性格に変貌してしまう契約者がいる。
- ・秘術武器が求めているのは、正義の味方”ではなく”使い手”であるため、契約者の暴走を止めたりはしない。

○複数の秘術武器との契約

- ・複数の秘術武器と契約することは可能。
- ・初めてこのルールをプレイする場合は禁止とする。
- ・秘術武器1つにつき、所縁の欄を1つ埋める必要がある。そのため契約できるのは、CLV+1体か、7体のどちらか少ない方までとなる。
- ・その秘術武器が暴走する条件は、AALの合計>CLVの場合となる。
- ・暴走した場合、PCをどの秘術武器が操作できるか決める。
- ・複数の秘術武器の意見がわかれた際、AALの合計>CLVだった場合、一番AALが低い秘術武器が追い出される（強制的に契約解除となる）

§ シナリオフック

契約者のPC向けのシナリオアイデアを参考までに列挙しておく。

1) 殺人鬼との邂逅

秘術武器を手にしたことで快楽殺人症に目覚めたものがある。そいつはPCの周囲の人間から手につけ、秘術武器の感知能力で最終的にPCの前に現れる。

2) 組織からの勧誘

金品、財産を代償に、ある非合法組織への協力を依頼される。その組織のリーダーは、ただ用心棒が欲しいだけなのか、それともPCの持つ秘術武器を狙っているのか？

3) 太古からの因縁

ふらりと秘術武器の使い手が現れる。その秘術武器とPCの秘術武器は長年のライバルであり、有無を言わず戦闘開始を要求される。

4) 濡れ衣か？ 陰謀か？

PCは突然、警官に職務質問され、そのまま連行される。抵抗しようすると、警官は銃を向ける。状況が悪化すると、SWATなどの部隊が次々に投入され、PCを捕まえようとする事態は拡大していく。